



Creating My Future

6年生を送る会をしました

3月1日(金)に6年生を送る会をしました。1～5年生がこれまでの感謝の思いをクイズや歌、ダンス、劇、お手紙などで伝えました。どの学年も一生懸命発表する様子が見られ、これまでたくさん練習してきたことがよく伝わる素晴らしい発表でした。また、6年生はそれに答える形でお礼のメッセージと合奏、合唱を披露しました。6年生の発表はさすが最高学年という発表で、在校生もこんな6年生になりたいと改めて思ったのではないのでしょうか。みんなの笑顔があふれるとても素敵なひと時になりました。



1年生の発表



5年生の発表



6年生の発表

小学校卒業に向けて②～送る会を終えて・卒業プロジェクトの取組～

「送る会を終えて」

6年生を送る会、卒業を祝う会は卒業プロジェクト実行委員会を中心に進めてきました。私達6年生は、合唱と器楽演奏を発表しました。「心一つにして思い出を作ろう」という目標に向かって練習を重ねました。器楽合奏「情熱大陸」では、曲の途中で衣装を付けるなどの工夫もすることができました。もう一つの器楽演奏「RPG」では楽器の種類が多くて大変でしたが、「中学校に行っても前に進めるように」という思いが込められた器楽演奏は、卒業プロジェクトの目標の一つである「おもしろい」にもつながっていたと思います。

岡田先生にはたくさん指導していただき、感謝の気持ちでいっぱいです。ここまでできて本当に嬉しいです。

次はいよいよ「卒業式」という小学校での締めとなります。小学校生活の終わりとなる3月18日は、保護者の皆様と一緒に思い出に残る式になるようにがんばってまいります。

卒プロ副実行委員長 天野 紗弥

「文集・アルバム」

僕たちが作ったアルバム・文集には、みんなのプロフィールや「6年間の思い出と将来に向けて」というテーマで書いた作文が載っています。僕たちがアルバムを作ろうと思った理由は、アルバムを作ること、たまに見返した時に小学校生活を思い出してもらいたいと思ったからです。

そのため、アルバム・文集の目標は、「小学校生活を思い返せるような素敵なアルバムを作ろう!」です。そしてアルバムと文集係で力を合わせて、最高のアルバムにしたいです。

アルバム・文集係長 藪下 芯太

「卒業制作について」

私達は卒業制作係でキャンパス画とDVDを作っています。まずアート制作の一つは校舎の画ともう一つは校訓を書いています。テーマは「在校生、卒業生、全員の思い出になるような卒業制作を完成まで作り上げよう!」です。私達が卒業しても、卒業制作を見ることで、私達のことを思い出してくれて嬉しそうです。

卒業DVDは、「思い出や将来に向けて」という内容になりました。このDVDを作るためにたてたテーマは「今までの成長や思い出をDVDに残して、素敵な卒業にしよう」です。6年生として素敵な卒業にしたいです。

卒業制作係長 西村 奏美

「イベント・フェスについて」

僕たちイベント・フェス係は、6年生チームと在校生チームにわかれており、さらに6年生チームはインドアチームとスポーツチームと教室利用チームに分かれています。インドアチームはビンゴを計画していて、スポーツチームはチームごとにドッチボールやバスケット、隠しもの探しを計画しました。教室利用チームは図工室、理科室、家庭科室をすべて利用したどっきり屋敷を準備しました。そして、在校生チームは1～5年生それぞれにイベントを考えました。どれも実行することができ、在校生も6年生自身も楽しむことができよかったです。

イベント・フェス係長 石川 和弥

第77回卒業証書授与式を挙行政たします

18日(月)に卒業証書授与式を挙行政たします。当日は、卒業生と在校生代表の4、5年生ともに8:20までに登校し、9:20から卒業証書授与式を挙行政たします。卒業生は10:40ころ、在校生は11:00下校を予定しています。詳しい日程につきましては2月14日(水)にお配りした「第77回卒業証書授与式のご案内」(卒業生)、「下校時刻変更のお知らせ」(4、5年生)をご確認ください。なお、1～3年生はお休みとなります。登校日ではありませんので、ご注意ください。

附属函館小学校の学校研究について

本校では学校研究テーマ「新たな価値を創造する力の育成につながる資質・能力の育成を目指して～強い目的意識を養う～」の実現に向けて、教科の学習、学級・学年の活動、学校行事等を通して子供たちの資質・能力を育ててきました。11月に開催した研究大会では参観された方々から「自分で決めた課題と向き合う子供の姿が見られた」など、たくさんのご意見をいただき、多くの教育関係者の皆様に本校の研究実践を紹介することができました。

今年度は、研究活動の取組の一つとして、保護者の皆様のご協力のもと、6月と12月にアンケート調査を行うことができました。その結果からは、附属小の子供たち自身や、保護者の皆様から見た子供の姿として、「学習の目標を自覚し、具体的な計画をもつ」ことに関する項目を含む複数の数値に上昇が見られました。

「何を目標にするのか。」「どうすれば目標を達成できるのか。」など、ご家庭でもお子さんといっしょに話し合っていたことによる影響も大きいと受け止めており、今年度の附属小研究の成果だと考えております。ご協力いただき誠にありがとうございました。

令和6年度も、学校研究の充実と子供たちのより豊かな学びの実現を目指して、学校と家庭が連携を図った取組を進めてまいります。引き続き変わらぬご支援とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。なお、令和6年度の研究大会は7月24日(水)に開催いたします。研究大会当日のPTA活動へのご協力も合わせてお願い申し上げます。

研究主任 市川 洋二



本校の研究活動を紹介するホームページを準備中です。詳細については、後日改めてお知らせいたします。

後期の児童会を振り返って～児童会会長や各委員長から一言～

3月5日(火)で後期の児童会活動が終了しました。後期の活動も自分たちでできることを考え、学校をよりよくしようと取り組んでいました。児童会会長と各委員長から後期の活動の反省や来年度への引継ぎ、エールなどについて振り返ってもらいました。

「助け合い結束した児童会」 児童会会長 工藤 秀太

後期児童会では、MVP アンケートや赤い羽根募金、JICAの先生方の歓迎会・お別れ会の司会進行をしました。

MVP アンケートと赤い羽根募金では、担当をそれぞれ分けて効率よく作業をできるように工夫しました。

JICAの先生方の歓迎会・お別れ会では、児童会そして児童のみなさんが協力してくれたのでとてもスムーズに進めることができました。後期児童会へのご協力ありがとうございました。

次期児童会のみなさんは、今期の児童会ができなかった MVP アンケートの賞状の実施や、季節(秋・冬)のポスターの実施をお願いしたいと思います。

児童会活動の序盤は、緊張していて意見を聞いても言いづらいこともありましたが、でもぼくはこれからの児童会の仕事を効率良くするために、なるべく優しく、親しめるように気をつけました。

そして今回の児童会役員がとても優秀で、頼む前に仕事をしてくれたり、期限があるものを早く終わらせてくれて、とても頼もしい役員たちでした。ありがとうございました。

「スポーツ委員会を振り返って」

スポーツ委員長 吉田 希

スポーツ委員会の目標「エンジョイスports」に向けて、スポーツイベントを開催することができ、全校のみなさんを楽しませることができました。ほかにも倉庫整理をして学校をきれいにしたり、グラウンドの使い方やルールなどを考えたりすることができました。しかし、上手くいかないことも多く、特にスポーツイベントは提案から開催までとても時間がかかってしまいました。次の委員長の人は、委員みんなをまとめられるように頑張ってください。後期スポーツ委員会へのご協力ありがとうございました。

「委員長になって」

生活委員長 佐藤 柑奈

生活委員会の活動目標は、「明るいあいさつがあたり前にできる学校」でした。この目標に向かって活動を行い全校であいさつを変えることの大変さを知りました。生活委員があいさつ活動に力を入れたことで、学校全体のあいさつが少し明るくなったように感じました。校内清掃やポスター作成などの活動ができなかったことが課題点です。「あいさつ運動」は、附属小の先輩方が受け継いでくれた活動だから、「あいさつジャンケン」などの新しい活動をこれからも引き継いでほしいです。

「図書委員会を振り返って」

図書委員長 天野 紗衣

後期図書委員会では、前期の活動を引き継ぎ、本の貸し出し、読み聞かせ、しおり作成、本整理に取り組みました。委員一人一人が、図書委員会として責任をもって熱心に活動することができました。

令和6年度の図書委員会に引き継ぎたいことは、これまでの活動の継続と、図書の貸出体験や返却ボックスの制作です。100周年の図書委員会として、より良い図書委員会を作り、みんなが本を好きになるような活動を続けてほしいです。

半年間、図書委員会へご協力いただきありがとうございました。

「放送委員として取り組んだこと」

放送委員長 谷口 陽人

「フレコン復活！」自分たちにはやりたいことがありました。それは、フレッシュコンサート、いわゆるフレコンです。フレコンは新型コロナウイルス感染症の流行でしばらく中止になっていました。昔のように活動できる日々が戻ってきて、今ならフレコンを復活させられると思い、フレコンを企画し、実施することができました。

放送委員では、毎日の放送に加え、児童会役員と協力してフレコンを実施することができました。今年度復活したフレコンをこれからの附属小学校の伝統として引き継いでほしいと思います。最後に自分の反省を踏まえ、来年度の委員長にはメンバーを信頼して、任せる仕事は任せながら、全員で協力して委員会を盛り上げてほしいと思います。